

神奈川県産ネコノチチについて

長谷川 義人・浜中 義治

Recent Status of *Rhamnella franguloides* (MAXIM.) WEBER.
(*Rhamnaceae*) in Kanagawa Prefecture

Yoshihito HASEGAWA and Yoshiharu HAMANAKA

ネコノチチとは

ネコノチチはクロウメモドキ目クロウメモドキ科ナツメ族ネコノチチ属の小高木又は灌木でクマヤナギ属やヨコグラノキ属に近縁と考えられる。属名の *Rhamnella* はクロウメモドキ属 *Rhamnus* の縮小語であって、種名はイソノキ属 *Frangula* に似るとの意である。本属は東アジアに約7種があり、ネコノチチは岐阜?・三重・和歌山以西の本州、四国、九州、南鮮、済州島、中国中南部(約11省)に分布する。

本種はクロウメモドキ科の他の多くのものと同様にコクサギ型葉序を示す。托葉は早落性。葉は縁辺に細鋸歯を有し長楕円形・倒卵状楕円形で先端が尾状に伸び、基部は広いくさび形から円形で、時に左右が不同となり、羽状脈は下面に打ち出して、通常紅赤色を帯びよく目立つ。葉質は薄い洋紙質、色は暗緑色ながら黄味がやや強く、秋季黄葉して落ちる。枝は頂芽を作らないので、翌年遅く萌芽する時に枝端は枯れる。花は5~6月頃葉腋に短い集散花序を作り、5~10数花が短柄上に緑色で5数の両性花を開き、子房は下半不完全な2室、半上位子房で最下部のみ花托中にある。花柱は浅く2裂する。果実は長楕円状円柱形で漿果様核果で9月初旬に橙黄色となり、10月には黒紫色に熟す。果皮内に下半2室状の核があり、口髯状に下向し、内部に胚乳を持った1種子がある。(他の1種子は結実しないと考えられる)ネコノチチの和名はその果実の形状に由来している。

本州中部以南の産地から神奈川県へ隔離分布をすることで県産の樹木中でも特異な種と考えられる。

再発見とこれまでの経緯

筆者の一人、長谷川は1952~3年頃より自宅周辺の

フロラを作成するために調査を始めたが1956年にはその範囲を中区から金沢区迄、戸塚区の鎌倉街道以東を含む「横浜市東南部植物仮目録」(未発表)作成のために年間を通して歩いていた。昭和31年9月5日中里・別所を通過して下永谷町芹ヶ谷に至り、水田でシソクサ・ミズマツバ・コミカンソウを採集し、目を転じた時に小川に面した丘陵の斜面に柿色の小果を累々とつけた小高木を認めた。この種の樹木はかつて見たこともなく、持ち帰った標本を調べても産地など該当するものなく不明であった。

この年12月9日に東京牧野植物同好会が資源科学研究所の榎山泰一先生を講師とし観音崎で行なわれた。この時不明のその標本を持参し、久内清孝・榎山泰一両先生の鑑定でネコノチチと判明したが、久内先生は驚いて、どこで採ったかと質問された。先生のお話では昭和8年の県植物目録に載っているが、保土ヶ谷・戸塚にあるらしく正確な場所はわからないとのことであった。この後、榎山先生から案内の御依頼があり、昭和32年6月に平戸行のバスで当時は砂利道であった県道平戸~吉原線を通して平戸へ出た。その頃は見渡す限り水田と畠でバス停から歩いて目と鼻の先で先生はネコノチチを見出された。筆者は前年9月5日にここの上手に2個所の群落を見出していたので、ここは第3の場所となった。この折のことは、植物研究雑誌に榎山泰一「ネコノチチの再発見」として昭和32年12月に発表された。翌33年には横浜植物会の伊達健夫幹事から筆者に連絡があり、6月例会で本種の生育地を案内するようにとの依頼があり、当日は浅野学園長神名勉総先生(遣伝学故人)の御尽力で木原生物学研究所で木原均先生の講義を聞く会と合せて、京急弘明寺駅集合でアリノトウグサ、ヒトツバハギ、ノアズ

キなど観察し、下永谷のネコノチチを見て六ツ川の本原生物学研究所迄行った。この日、6月22日には多数の会員が参加した。

筆者はその後正確な生育状況を報告しようと準備したが、発表することもなく年月が経て出口長男氏の「横浜植物誌」が発刊され、ネコノチチの生育状況の紹介は非常に正確であった。出口氏は現地を見に行かれたものと思う。

昭和30年後半から宅地造成が盛んに行なわれ、第2産地は芦谷川を暗渠にした時に失われた。この頃には芦ヶ谷小学校の建設と整備があり、この第一発見地には2本が残ったのみであった。この保存を学校の理科教員に要請したことで、現在も学校植物園の案内板にネコノチチと記されているが、環境の変化で枯死してしまった。第3産地も昭和50年頃には竹材丸太置場になって次第に絶滅し遂に一本も残らなかった。

現在の状況・再々発見

筆者の一人、浜中は県植物誌調査戸塚区(TO-3)の調査中、1985年10月3日品濃町の団地を通して、小高い場所にある雑木林の中で見えない樹木を見て、この標本を県博の高橋秀男先生に同定していただいたところ、ネコノチチかも知れぬということであった。このことが気掛りとなり10月6日国鉄東戸塚で下車し前回の記憶をたどり進むと、場所は平戸町平戸小学校わきの林中であることがはっきりした。ここには幼木も可成りあり、高さ3~4mの成木も含めて数十本が健在であった。成木には果実が点々とついており、一部黒熟しているものも見えた。

長谷川はこの報告を書くのに再び詳細な調査を行い1985年11月3日には芦谷川沿いの丘陵斜面の第1~第3迄の生育地のネコノチチは全滅であることを再確認した。

本種が北又は北西向の谷か川に沿った斜面に多いことが共通点であることを知って、第3発見地の西側に廻った処で約10本位のネコノチチを見出した。ここは宅地造成地内の建築不能の斜面であった。(第5産地)

更にこの日、平戸町の平戸川南側に続く斜面を注意して歩いた結果、田中甲子氏宅地内と浄土宗光安寺墓地上の斜面に見事な群落を発見し、翌日は更に上流の一丁田橋~平戸橋間の平戸台小学校北斜面にもネコノチチが生育しているのを見た。これらの各生育地はコナラ、エゴノキ、イヌシデ、キブシ、マユミ、ミズキ、ヌルデ、ヤマザクラ、ウワミズザクラなどの雑木

が主で低木としてコマユミ、アオキ、アズマイバラなどがあつた。

ここで判明した産地(絶滅も含む)を記すと、

1. 港南区芦ヶ谷3-33地先芦ヶ谷小学校北斜面(絶滅)
2. 港南区芦ヶ谷4-3地 芦ヶ谷団地内(絶滅)
3. 港南区下永谷町414地先(旧新世乳業会社前)(絶滅)
4. 戸塚区平戸町668番地先 平戸小学校南側丘陵北斜面
5. 港南区下永谷町218番地先 三洋建商前入る西斜面
6. 戸塚区平戸町1131番地 田中甲子氏宅屋敷林
7. 戸塚区平戸町392番地 浄土宗光安寺(長谷川昌光住職)
8. 戸塚区平戸町1196番地先 平戸台小学校北斜面

以上の内で平戸小学校南側には根廻り36cm胸高幹囲29cmのものを見ている。光安寺並びに平戸台小学校北斜面にも計測していないが、大きい木があり、一般に西日の差し込むような北斜面が好適地のように思われる。

文献中の産地について

神奈川県植物目録(昭和8年)には産地として、鎌倉(本郷)とあり、これが何れを指すのかは不明であるが、現戸塚区は旧相模国鎌倉郡の一部に相当し、本郷は上野村、中野村、鍛冶ヶ谷村、小菅谷村、桂村、公田村の六ヶ村の呼名で後に本郷村として成立した時には、これらに笠間村が加わった。又下野庭村、上野庭村、水谷村の三村は後に鎌倉郡永野村となり、これは現在の野庭、上永野、下永野町の三町である。平戸町は旧鎌倉郡川上村平戸であった。これらを勘案すると現在の生育地は全て相州鎌倉郡内で平戸町・下永野町に限られていて、本郷地区では発見されていないのであるが、比較的近隣の地域であるので精査すれば発見される可能性はあり、この中間の柏尾・舞岡・倉田の各町内にも生育の可能性が充分にあると考えられる。特に秋季黒熟したものは鳥がついばみ、又種子は地に落ちてよく発芽するので、その産地は更に見出だされる可能性が大きいと思われる。

なお松野重太郎先生(横浜植物会の元幹事故人ヨコハマダケやハコネグミの学名に名を残す)や久内清孝先生の時代に本郷村へ行くことは非常に難儀であつて、桜木町の駅から徒歩で弘明寺を通り丘陵越えて採集に行かれたようで、本郷村のスハマスウ、ヤマハリソウなど当時からよく知られていたものである。とても日帰りは出来ないので農家に泊めてもらったと久内

先生（故人）は述懐されておられた。併し徒歩で行くので南太田、井土ヶ谷を通り、金沢道を右へ入り引越村の坂を越えれば平戸村であったから、迷えば平戸を本郷と誤認することもあるかと考えられる。本郷は古来より有名地（古文書など）であり、横浜と鎌倉の中間を広く本郷とみなしたか、採集者にとって山野の中ではそれ程行政区域を厳密に考えないことと、実際にしばしば地名は不明であり特定できないことがあると考えられる。目録の地名・本郷はそうしたものの一つであろう。

文 献

- 出口長男 1968 横浜植物誌。
 松野重太郎他 1933 神奈川県植物目録。神奈川県植物調査会
 榎山泰一 1957 ネコノチチの再発見。植物研究雑誌，32：318。
 奥山春季 1948 植物採集覚書（其六）神奈川県（其三）鎌倉。植物研究雑誌，22：89。
 大井次三郎 1951 ヤエヤマネコノチチ。植物研究雑誌，26：231。

（神奈川県植物誌調査会）



図1 横浜市内におけるネコノチチの分布地点 地図中の番号1～8本文に対応。■は絶滅地 ●は生育地



図2 花期のネコノチ コクサギ型葉序を示す

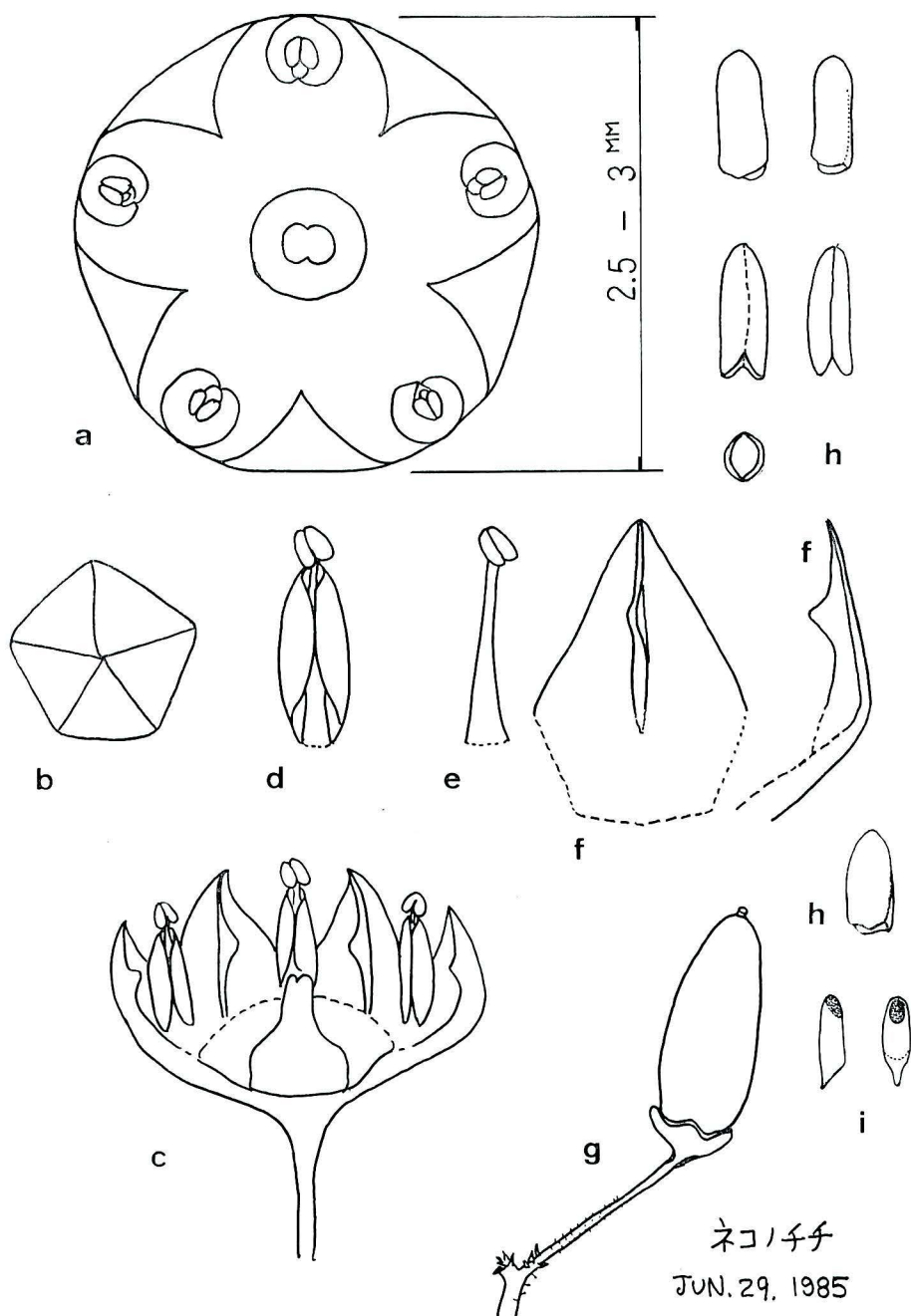


図3 花及実の分解

- a. 花を上から見た図，萼は下半合体，片は5数
- b. ツボミ
- c. 花の縦断面図
- d. 花弁と雄ずい（花弁は雄蕊を包む）
- e. 雄ずい
- f. 萼片（5片）中央にキールがある。
- g. 果実
- h. 核
- i. 種子

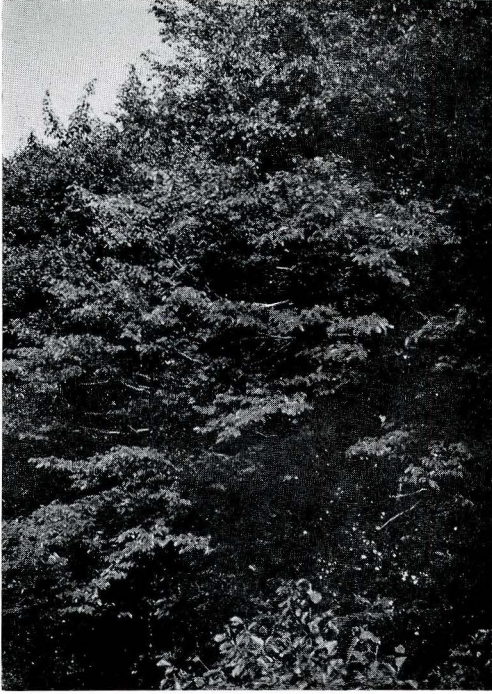


写真1 戸塚区平戸町光安寺 ネコノチチ林 (黄葉)
Nov., 3. 1985.



写真2 港南区芹ヶ谷産 ネコノチチ栽培品
Nov., 3. 1985.